

2 水はどこから来たのでしょうか？

みなさんが使っている水道の水は、ダムの水、川の水(水げん林^{りん})、地下水を水げんとしています。

(1) ダムの水

みなさんのすむ豊橋市には、豊川^{とよがわ}という大きな川があります。豊川^{とよがわ}には宇連^{うれ}ダムや大島^{あまみず}ダム、そしていくつかのせきがあります。ダムは川をせき止めてたくさんの雨水^{あまみず}をたくわえることができます。川の水が少なくなったり、水をたくさん使う季節^{きせつ}にダムの水を流して使いますし、こう水も防いでくれます。

しかし、新しくダムを作るには、たくさんのお金と土地と時間が必要^{ひつよう}となります。また、ダムを作ると川の水の量^{りょう}が減ったり、川の水が汚れたり、そこに住む生物への影響^{えいきょう}も心配されます。



大島ダム ^{ちよすいりょう} 貯水量 1,130万m³



宇連ダム ^{ちよすいりょう} 貯水量 2,842万m³

ダムは大切な
役わりをしている
んだね！



(2) 川の水 (水げん林^{りん})

豊川^{とよかわ}の水はどこから流れてくるのでしょうか。それは、森林からです。森林に降^ふった雨は、森林の土にしみこみます。森林の土は、葉っぱやかれた木がくさってできていて、スポンジのようにやわらかで、たくさんの水をたくわえることができます。



光が入る元気な森林 (枝打・間伐後^{えだうち かんばつ})

森林の土にしみこんだ雨水^{あまみず}は、ゆっくりと地下にしみこんで、何年もたってようやく川に流れ出します。もしかすると、みなさんが今のんでいる水は、何十年も前に森林に降^ふった雨水^{あまみず}なのかもしれません。

このように、森林は降^ふった雨を何年もかけて少しずつ川やダムにとどけてくれ、こう水も防^{ずい}いでくれます。だから、雨が降^ふらない日がつづいても、豊川^{とよかわ}の水はすぐにはなくなりません。

このような森林は「水げん林^{りん}」とか「緑のダム」とよばれています。豊橋市をはじめ東三河の市町村が、豊川^{とよかわ}上流の「水げん林^{りん}」を豊かにするために、水道料金の一部を使い森づくりに取り組んでいます。

ダムと同じはたらきをする森を、みんなも育ててね!

資料提供：
NPO法人森林真剣隊



植栽^{しょくさい}



下蒫^{したがり}

(3) 地下水

雨水^{あまみず}は、地面にしみこみ何年もかけてきれいな地下水となります。豊橋市にはこの地下水を水道水にしているしせつが10か所あります。

一度にたくさんの水をくめませんが、ダムの水が少なくなったとき、貴重な水^{きちょう}となっています。